

「生理」を社会で語る。

連続全3回

8月29日^土

10:00～15:30

講師

堀川 祐里
(経済学科 准教授)
山田 満月
(人間科学科 講師)
富樫 千紘
(心理教育学科 准教授)

場所

会議室

みなさんは月経について語り合ったことはありますか?「生理」というけど、なんで「月経」は使われないんだろう?月経がこんなに大変なのは私だけ?そんな疑問を持ったことはありませんか?実は、月経は女性だけの問題ではなく、健康・からだの権利として性別に関係なく知識が必要です。本講座では、講師からのレクチャーに加え、参加者のみなさんとの交流の機会も設けます。ご家族でのご参加も大歓迎です。日頃みなさんが疑問に思っていることを分かち合いながら、一緒に語り合しましょう!

【タイムスケジュール】

10:00
11:10
12:30
13:40
15:00
15:30

1 限: 休むのは権利。「生理休暇」のこれまでと未来

お昼休み

#わたしたちと月経 トークセッション

2 限: 月経周期はパフォーマンスに影響するの? -女性アスリートのコンディションづくり-

3 限: 私のからだの当事者になる。「生理」をとりまく和光学園の今

参加者とのディスカッション

講師: 堀川

講師: 山田

講師: 富樫

お申込み方法

STEP
01 申込



上記申込みフォームからお願いします。**8月17日(月)16:00**まで

STEP
02 支払



当日、受講料は各会場にて現金でお支払いください。

STEP
03 受講



各会場までお越しください。

■受講料

1科目: 2,000円
※8/29講座のみ4,000円
(和光大学生と高校生は無料。
当日、学生証をご持参ください。)

■お問い合わせ

和光大学 企画係 地域連携研究センター
(月～金/9:00～16:30)
☎044-988-1433 ✉renkei@wako.ac.jp

和光大学ポブリホール鶴川



▲和光大学ポブリホール鶴川



ご挨拶

地域連携研究センターでは、30年以上にわたり、地域の皆様とともに学ぶ公開講座「ぱいでいあ」を開催してきました。今年度は夏休み・春休みに、多彩なテーマの単発講座を開講します。学部や学科の枠を超えた和光大学らしい学びを、高校生から一般の方まで幅広く体験いただけます。創立60周年の節目に、大学の教育・研究成果を地域の皆様と共有できることを嬉しく思います。ぜひお気軽にご参加ください。

地域連携研究センター長
角尾 宣信

オープンカレッジ ぱいでいあ

2026年8月 和光大学公開講座

8月22日^土 ▶▶▶ 8月29日^土

和光大学ポブリホール鶴川3階で、全13講座開講します。
和光大学の教員による公開講座です。ぜひご参加ください。



現代人間学部 心理教育学科
准教授 富樫 千紘



現代人間学部 人間科学科
講師 山田 満月



表現学部 総合文化学科
准教授 角尾 宣信



表現学部 総合文化学科
教授 津田 博幸



表現学部 総合文化学科
教授 稲葉 有祐



表現学部 総合文化学科
教授 沖田 瑞穂



経済経営学部 経済学科
教授 伊藤 隆治



経済経営学部 経済学科
准教授 堀川 祐里



非常勤講師
山下 宗久



非常勤講師
齋藤 澄子

◆◆◆ 講座内容 ◆◆◆

「現代人が無文字社会の文化から学ぶこと」 単発

8月22日^土

10:00～11:30

講師

山下 宗久
(非常勤講師)

場所

会議室

受講生のみなさんが、拙著『読み書きのない世界 無文字社会の文化を知る七章』(ちくまプリマー新書)を読んでいることを前提に、拙著で言及しなかったことを補足しながら、話を進めていきます。その際に、みなさんから質問していただき、それをもとにして、議論していければいいなと思っています。また、本講座では音声資料を使用します。これを聴いて、無文字社会における語りのすばらしさをみなさんに知っていただくことも、本講座を開く目的の一つです。

「ことばの音を学ぶということ 音声学・音韻論へのいざない」 単発

8月22日^土

14:00～15:30

講師

松原 理佐
(非常勤講師)

場所

会議室

たとえば、英語の発音は難しく、日本語は簡単だと言われますが、本当にそうなのでしょうか。発音の難しさを測ったり、決めたりすることはできるのでしょうか。また、「トントン」と「ドンドン」でドアを叩く強さの違いが伝わるのはなぜでしょうか。本講座では、こうした身近な疑問を手がかりに、ことばの音を探る学問(音声学・音韻論)の考え方を、やさしく紹介します。みなさんからも、「ことばの音」に関する疑問があればぜひご共有ください。

「環境教育と水族館」

単発

8月24日 月
10:00～11:30

講師 伊藤 隆治
(経済学科教授)

場所 多目的室

近年、水族館は生物を観察する場から、環境や生命について体験的に学ぶ教育施設へと発展しています。本講義では、福島県いわき市のアクアマリンふくしまを事例に、魚を釣り、さばき、食べる「命の教育」などの取り組みを紹介しながら、体験型学習の意義と環境教育における水族館の役割を考えます。開館当初から現在まで、私がデザイン監修を続けてきた立場から、その理念や展示づくりの考え方についても紹介したいと思います。

「おおだな大店と財閥」

全4回

① 元禄の豪商と文芸（付属ワークショップ：変体仮名を読んでみよう！）

8月24日 月
10:00～11:30

講師 稲葉 有祐
(総合文化学科教授)

場所 会議室

天下泰平の元禄時代、人々は秀抜なアイデアを駆使して巧みに経済発展の波に乗り、歴史に名を残していきました。紀伊國屋文左衛門、奈良屋茂左衛門、そして三井高利。では、当代を代表する豪商たちを同時代の俳人・作家はどのように捉えていたのでしょうか。本講座では、蕉門の宝井其角や井原西鶴の文芸を通じて、貨幣経済の実態や時代の雰囲気学びます。当時の文献や変体仮名にも親しんでみましょう。

② おおだな江戸時代の豪商と大店

— その経営と雇用（付属ワークショップ：でっち「でっち丁稚の事件簿」：江戸期の資料に触れてみよう！）

8月24日 月
14:00～15:30

講師 棚井 仁
(経済学科講師)

場所 会議室

江戸時代には、商人たちの活躍がみられました。とくに、三井家や鴻池家など、豪商と呼ばれる富裕な商人たちは三都を舞台にビジネスを展開しました。本講座では、豪商たちのビジネス=おおだな「大店」の経営について学びます。また、そこで雇われて働く「でっち丁稚」たちが現代の「サラリーマン」にも通じる雇用制度のもとで働いていたこと（経営学でいう人的資源管理）にも、史料を読み解きながら触れたいと思います。

③ 大店から財閥へ

— 明治期から戦時期まで

8月28日 金
10:00～11:30

講師 棚井 仁
(経済学科講師)

場所 会議室

江戸時代に豪商と呼ばれた商人のなかには、明治維新の過程で「政商」へと転身し、さらに「財閥」へと事業を発展させるものが登場しました。その一方で、没落・破産した豪商も存在しました。彼らの成否を分けたものは何だったのでしょうか？また、財閥へと発展し得た要因とは何だったのでしょうか？本講座では、明治期から戦時期における財閥の展開について、そのビジネスの特徴、日本経済において果たした役割について学びます。

④ 財閥解体のインパクト

— サラリーマン喜劇から探る敗戦後の経済体制（付属ワークショップ：映画を分析してみよう！）

8月28日 金
14:00～15:30

講師 角尾 宣信
(総合文化学科准教授)

場所 会議室

懐かしの映画『三等重役』や『社長』シリーズを題材に、財閥解体後の経済体制や敗戦後の社会状況を読み解きます。多くの人々が楽しむ映画は、その人々の属する社会のことを驚くほど反映し、またフィルム上に記録しています。懐かしさとともに、現代にも通ずる日本社会の構造を探っていききたいと思います。現在の映画や映像を鑑賞する際にも使える、映像分析の手法を学べるワークショップ付きです。

「共生社会の実現に向けて」

単発

8月24日 月
14:00～15:30

講師 齋藤 澄子
(非常勤講師)

場所 多目的室

私たちは日々、いろいろな人たちに出会い、関わりながら生活を送っています。最近、電車に乗ると「ヘルプマーク」を見かけることが多くなりました。この講座では改めて「障がい」とは何か…について考え、これからの共生社会の実現に向けて私たちができることを考えていきたいと思います。

「サブカルで学問する！」

全4回

① ポピュラー・カルチャー研究からみた K-POP—BTS を中心に

8月25日 火
10:00～11:30

講師 角尾 宣信
(総合文化学科准教授)

場所 多目的室

K-POP の魅力を、ポピュラー・カルチャー研究の観点から読み解きます。今回は BTS にフォーカスを当て、歌詞や楽曲が表す世界観や、そのミュージックビデオの映像分析を行います。そこから明らかになっていくのは、ポピュラー・カルチャーと社会との密接な関わりです。K-POP の歴史からみた BTS の特徴や意義に関しても、考察していく予定です。

② 『シン・ゴジラ』の神話学

8月25日 火
14:00～15:30

講師 津田 博幸
(総合文化学科教授)

場所 多目的室

映画『シン・ゴジラ』では、ゴジラは「ヤシオリ作戦」により倒されます。「ヤシオリ」とは日本の古代神話でスサノオ神がヤマタノオロチを倒した時の酒の名です。倒され方以外にもシン・ゴジラとヤマタノオロチはよく似ています。巨大怪獣退治の物語を通して、人間は同じテーマについて考えているのです。これを「神話的思考」として分析します。

③ 神話で読み解く怖い話

8月28日 金
10:00～11:30

講師 沖田 瑞穂
(総合文化学科教授)

場所 多目的室

みなさんが知っている都市伝説、「口裂け女」。この都市伝説が神話につながる、と言ったらいかが思われますか？実は現代のさまざまな「怖い」作品は、神話から読み解くことができます。たとえばイザナミは人間に死の運命を定めた恐ろしい女神ですが、その系譜の先に、「口裂け女」などの現代の「怖い女」があります。ほかに、ホラー作品などもこの視点から読み解いていきます。

④ 江戸の妖怪—戯れる狂歌師たち—

8月28日 金
14:00～15:30

講師 稲葉 有祐
(総合文化学科教授)

場所 多目的室

天明5年(1785)、宴会のさなかに人魂(のようなもの)を見た狂歌師たち。彼らと旧知の薦屋重三郎は、そこで怪異の現れるという百物語ならぬ百首の狂歌をみんなで詠もうと思い立ち、ワクワクドキドキ、準備を始めます。妖怪(化け物)を題とした五七五七七の狂歌を読み解きながら、不思議・不安・恐怖といった心の生み出す闇、そしてそれを笑いに変える江戸人のバイタリティーを探ります。果たして怪異は現れるのでしょうか。